■特定課題セッションⅦ 報告
「社会福祉学における歴史教育の価値と意義」

コーディネーター：野口友紀子（長野大学）

【各報告者の発表要旨】

柴田謙治会員による報告は、2011 年３月に行われた「社会福祉士を養成する大学における社会福祉の歴史教育についての調査」（社会事業史学会第４次歴史教育委員会）の結果報告であり、歴史科目の開講形態や学年などの基本的事項と自由記述欄にみる特徴が述べられた。コマ数の減少などカリキュラム上の問題に加え、学生の歴史の知識の乏しさ、また教える際の適切なテキストや参考書の不足が指摘され、少ない時間で歴史を知らない学生に何をいかに教えるのか、という課題が明らかにされた。

金子光一会員による報告では、歴史教育の中身として公的部門の役割と公私のダイナミズムの重要性が論じられた。イギリスと日本の公私関係の歴史の比較検証から、公的部門と民間非営利部門の関係はイギリス、日本それぞれの国においてその時々で形を変え、時代状況により表面化するものと顕在化するものがあり、このことを踏まえて現在の状況を捉え、これから何をなすべきかを考える必要があると論じられた。そして公的部門の役割の変化のあり方、他の供給主体との関係などの分析は社会福祉学の教育において、社会福祉の本質や固有性を理解する上で欠くことができない内容であると述べられた。

木原活信会員による報告では、実践の歴史の意味を考えることを目的に、福祉教育制度と歴史、社会福祉原論の在り方と歴史、社会福祉史を研究する視点、歴史と実践性という４つの観点から論じられた。なかでも、周縁に追いやられた者の歴史が描かれていないが当事者からの歴史は別の物語が描かれる可能性があること、社会福祉の歴史研究と実践性との関係を考えることが述べられた。そして、社会福祉のアイデンティティが問われる現状において社会福祉の歴史の必要性についての開かれた議論の必要性の指摘がなされた。

今井小の実会員はセッション開始時に不在だったため規定により報告不成立となったが、報告時間には間に合ったため発表をお願いした。この報告では、アメリカでの社会福祉の歴史教育の位置づけが述べられた。アメリカのソーシャルワーカーの養成校では、その認定機関である CSWE(The Council on Social Work Education)により毎年シラバスが厳格にチェックされている。その CSWE の Curriculum Policy Statement では、歴史教育の重要性がリベラルアーツの側面だけでなく、ソーシャルワーク教育の前提となっており、具体的に「社会福祉政策とサービス」の内容の中にソーシャルワークの歴史が必須になってい

ることが報告された。

【コーディネーターのコメント】

当日は小教室が満員になるくらい盛況であり、共同討議においても活発に質問や意見がだされた。歴史担当者はもとより現場での実践者や歴史以外のご担当者も参加していただきご意見をいただいた。今回の４つの報告をまとめると以下のことが考えられる。社会福祉における歴史教育の必要性は重視されている一方で、何をどのように教えるのかという具体的な中身には踏み込んでいない現状の中で歴史担当者が自由に独自に授業を行っている。このような歴史教育の多様性のなかに一定の枠組みをおくとすれば、歴史教育の目的は専門職としての教養と専門性、教育の内容は援助する側（供給主体）と援助される側の歴史という志向の違いに整理できる。このような志向の違いを踏まえ、歴史教育における開かれた議論がさらに進めば、歴史教育の難しさも解消されるのかもしれない。